

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	作業療法管理学		必修	3年前期	8コマ・16時間
担当教員	丸山優子・温井恵	背景	作業療法士歴20年		
授業形態	講義	実務家教員	である		
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	標準作業療法学 作業療法概論 第3版 医学書院				
授業概要 職業人として活動するための基本的態度の習得、医療技術系専門職としてのチームワークに必要な基本的態度の習得、作業療法士として必要な管理運営に関する知識の習得を図る。					
狙いと到達目標 組織の置ける管理運営に関する知識を習得し、自ら運営する意識をもち行動できる。					
授業において実務経験をどのように生かすか 質の高い作業療法を提供するために、管理運営業務大きく関わっていることを現場の実例から説明することで、理解に深まりを促すことができる。					
授業計画・内容					
1	OT部門の管理・運営(丸山)				
2	医療福祉政策と診療報酬(丸山)				
3	作業療法部門の開設と起業(丸山)				
4	作業療法部門の開設と起業(丸山)				
5	記録と報告(温井)				
6	セルフマネジメント(温井)				
7	チームマネジメント・管理職になったら(温井)				
8	作業療法士法(温井)				
評価方法	グループワーク発表内容、小テスト				
自由記述 (メッセージ)					

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	職業関連活動援助学	必修	3年前期	8コマ・16時間	
担当教員	丸山 優子	背景	作業療法士歴20年		
授業形態	講義	実務家教員	である		
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	特になし				
授業概要 「人と職業」について考え、障害を持つ人の就労の現状と作業療法の関わりを知り、援助のための知識・技術を学ぶ。					
狙いと到達目標 人にとっての職業の意義を考え、障害を持つ人へもその保障をするべく、作業療法士としてどのような側面に援助したらよいかを考える。また職業リハビリテーションの現場訪問により、作業療法士の役割を考え、実際のなアプローチ方法を学び、臨床で生かせるようにする。					
授業において実務経験をどのように生かすか 現場での障害者就労支援援助の経験をふまえ、対象者にとっての職業の精神心理的意味や、利用できる制度などを具体的場面に沿って伝えていく。					
授業計画・内容					
1	職業とは / 障害者の就労支援制度、施設、サービス				
2	職業リハビリテーションの評価				
3	障害を持つ方の職業生活の実際				
4	障害を持つ方の職業生活の実際				
5	職業リハビリテーションの実際①(中部総合精神保健福祉センター見学)				
6					
7	職業リハビリテーションの実際②(国立職業リハビリテーションセンター見学)				
8					
評価方法	発表(50%)、レポート(50%)				
自由記述 (メッセージ)					

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	作業療法研究法Ⅱ		必修	3年前期	8コマ 16時間
担当教員	丸山 優子	背景	作業療法士歴20年		
授業形態	講義	実務家教員である			
受講ルール	特になし				
受講条件	特になし				
教科書等	作業療法士のための研究法入門 三輪書店				
授業概要 研究法Ⅰで学んだことや、評価実習での経験などから、より深めたい課題を見出し、内容について詳しく調べ、自分なりの結論や考察を導き出し、論文の形式に則ってまとめる。					
狙いと到達目標 一連のプロセスを通じて、多角的に物事を見ていくことや論理的に思考を進める方法を実践し、研究レポートを作成・発表する。					
授業において実務経験をどのように生かすか 作業療法士として現場に立つ際の、『冷静な頭』と『温かい心』を組み合わせ対峙していく経験から、物事を客観的にとらえていく方法・自分の中の問いを深めていく方法に関する助言に生かすことができる。					
授業計画・内容					
1	オリエンテーション、研究レポート作成				
2	研究レポート作成				
3	"				
4	"				
5	"				
6	"				
7	研究レポート発表				
8	研究レポート発表				
評価方法	研究レポート作成過程、研究レポート内容。				
自由記述 (メッセージ)					

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	地域作業療法学総論		必修	3年前期	8コマ・16時間
担当教員	中浦俊一郎・松本拓也・小川恵美子		背景	作業療法士歴22年	
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	標準作業療法学 地域作業療法学 第3版 医学書院				
授業概要 病院の在院日数の短縮化に伴い、医療的ニーズを抱えたまで退院されるケースも珍しくなくなってきている。そんな中で医療と福祉が共存し、協働していくために様々なシステムを構築すべく自治体を中心として様々な職能団体が動き始めている。このような流れの中で作業療法士がどのような役割を持ち、どのように実践していくのかを学んでいく。具体的には、地域作業療法という概念が生まれてきた背景や制度、実践に対する講義と演習である(演習では、特に作業療法協会にて開発された生活行為向上マネジメントツールを使用していく)					
狙いと到達目標 一般目標: 地域において作業療法士がどのような役割を担うべきかについて創造できるために、これまでの歴史的背景を理解し、現状と今後の課題、展望を整理できる。 行動目標: ①地域作業療法の基盤と背景について説明出来る ②それぞれの領域における実践についてイメージ出来るために具体的な内容を列挙できる ③生活行為向上マネジメントのツールを理解し、具体的な事例を通して書き込むことができる					
授業において実務経験をどのように生かすか 訪問作業療法に携わる中で、様々な職種とのつながりから作業療法士としての役割を明確にすることができた。就職先のほとんどが病院ではあるが、病院から地域に帰っていく患者さんにどのようなアプローチが必要なのかについてイメージを持たせることができる。					
授業計画・内容					
1	地域作業療法とは何か				
2	地域作業療法の基盤と背景				
3	地域作業療法の実践課程(MTDLPを中心に)①				
4	地域作業療法の実践課程(MTDLPを中心に)②				
5	領域別地域作業療法(老年)				
6	領域別地域作業療法(身障)				
7	領域別地域作業療法(精神)				
8	領域別地域作業療法(発達)				
評価方法	筆記試験70% レポート30%: 事例を通して生活行為向上マネジメントツール(MTDLP)を使用して演習を行い、レポートを提出する 試験当日はA4用紙2枚までの資料を持参しても構わない(ただし、裏表の場合は1枚とする)。				
自由記述 (メッセージ)	復習として「領域別地域作業療法」においては振り返りのレポートを課す場合がある。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	作業治療学特講		必修	3年通年	10コマ・20時間
担当教員	中浦俊一郎	背景	作業療法士歴22年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール				
受講条件	特になし				
教科書等	特になし				
授業概要 授業の工夫や実習にて臨床家になるための様々な学習がされていると思う。作業療法士になるためにベースが築き上げられ、実習にて実際にプログラムの遂行まで経験できる状況ではあるが、その後どのような形で作業療法が展開されているのか、「今」臨床では何が行われているのかに触れる機会は少ない。より臨床の息吹に触れ、卒業後も真摯に患者さんと向き合う姿勢を育てたい。					
狙いと到達目標 作業療法の臨床現場で必要とされる姿勢や知識について話を聞き、作業療法士の可能性や楽しさについて実感できる。またその内容について表現し、他者と共有できる。					
授業において実務経験をどのように生かすか 様々な分野の先生のお話を聞き、学生がどのような学びを得られたかをまとめ、表現しあう機会となるようファシリテートしていく。					
授業計画・内容					
1	急性期の作業療法				
2	”	NTT関東病院 作業療法士 森田将健先生			
3	回復期作業療法の実際				
4	”	ねりま健育会病院 作業療法士 仁瓶太志先生			
5	精神科における作業療法の実際				
6	”	長谷川病院 作業療法士 本山久美子先生			
7	認知症の作業療法の実際				
8	”	結城病院 作業療法士 川口淳一先生			
9	地域作業療法の実際				
10	”	株式会社ハート&アート 茂木有希子先生			
評価方法	レポートにて判定(100%)				
自由記述 (メッセージ)	第一線で活躍されている方ばかりであり、卒業後の作業療法士としてのあり方について考えさせられる機会になると思います。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	特論	必修	3年通年	32コマ・64時間	
担当教員	加藤和貴・丸山優子・中村由美・渡邊悠馬	背景	作業療法士歴18年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール＋私語は他人に配慮した範囲				
受講条件	特になし				
教科書等	理学療法士作業療法士 クエスチョンバンク共通問題 メディックメディア 理学療法士作業療法士 クエスチョンバンク専門問題 メディックメディア				
授業概要 身体障害、精神障害、老年期・発達領域における基本的知識・技術を統合し再確認する。 模試の結果も参考にし作業療法士として求められる知識を高める。					
狙いと到達目標 作業療法の臨床現場で必要とされる知識・技術の総復習と確認を行い、作業療法国家試験で求められるレベルまで理解を深め各項目を説明できる。					
授業において実務経験をどのように生かすか 国家試験の解説や模擬試験はどのように作成されるのか。そのポイントについて踏まえた上で効率の良い知識整理ができるよう指導していく。					
授業計画・内容（教員名がないものの担当は加藤）					
1～2	オリエンテーション 基礎分野 心理学				
3～4	基礎分野 精神医学				
5～6	基礎分野 内科学（丸山）				
7～8	基礎分野 生理学・病理学（中村）				
9～10	基礎分野 解剖学（丸山）				
11～12	基礎分野 運動学・神経医学（渡邊）				
13～14	基礎分野 人間発達学 臨床神経医学 整形外科学 リハビリテーション概論				
15～16	専門分野 精神障害①				
17～18	専門分野 精神障害②				
19～20	専門分野 作業活動 作業療法概論 評価法				
21～22	専門分野 ADL 義肢装具				
23～24	専門分野 老年期障害 脳血管障害				
25～26	専門分野 神経変性・筋障害 内科学				
27～28	専門分野 脊髄損傷 関節リウマチ・整形外科疾患				
29～30	専門分野 小児科学				
31～32	勉強のポイント・総まとめ				
評価方法	筆記テスト				
自由記述 (メッセージ)	この講義で各自の学習スタイルが確立することで、職務で求められる学びに対しても効率の良い取り組みを可能とします。作業療法士の取り組み自体が作業の効率化を内包するからです。その為の第一歩であり且つ影響が大きいものが「覚悟」であることは言うまでもありません。この講義でしっかりテキストに馴染んでおき、自己学習にも活かしてください。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科		
授業名,属性	作業療法総論		必修	2年後期	8コマ・16時間
担当教員	中浦俊一郎・加藤和貴	背景	作業療法士経験年数22年		
授業形態	講義	実務家教員 である			
受講ルール	共通ルール+実習着ルール(身体領域のみ)				
受講条件	特になし				
教科書等	特になし				
授業概要 作業療法における一連のプロセスについて、ペーパーペイシエントを用いながら演習を行っていく。6月には実習が始まるため、ここで今一度臨床推論の進め方について確認していく。					
狙いと到達目標					
一般目標: 作業療法の一連のプロセスを理解し、コミュニケーション、治療面の技術を高めることができる 行動目標: ①模擬患者に対する関わり方のデモンストレーションを見て真似することができる ②他の視点でのアプローチがないか考えだすことができる ③アプローチを実際に施行し、お互いにフィードバックができる					
授業において実務経験をどのように生かすか					
臨床経験や臨床実習指導者の経験から技術面や患者さんとのコミュニケーションの取り方について理解を導き、実践できるようにしていく。					
授業計画・内容					
1	身体領域	科目オリエンテーション			
2	身体領域	ケース提示後アプローチを考える			
3	身体領域	アプローチの実施①			
4	身体領域	アプローチの実施②			
5	身体領域	アプローチのフィードバック①			
6	身体領域	アプローチのフィードバック②			
7	精神領域	ペーパーペイシエント	グループディスカッション		
8	精神領域	発表/フィードバック			
評価方法	身障:OSCEにて採点(ルーブリック使用) 精神:レポート、授業態度				
自由記述 (メッセージ)	身障領域の注意事項:一人のケース情報を複数人が使用しますがグループワークではありません。他の人と相談せずに個人で取り組んでください。また、事前課題を基に授業が展開しますので必ず提出してください。提出締切が守られない、内容が著しく不十分などの場合、欠席扱いとなりますので注意してください。				

課程	医療専門課程	学科	作業療法学科	
授業名,属性	臨床実習Ⅱ-1及びⅡ-2(総合実習Ⅰ/Ⅱ)	必修	3年前・後期	(180コマ・360時間)×2期
担当教員	渡邊悠馬 他	背景	作業療法士歴6年	
授業形態	実習	実務家教員 である		
受講ルール	実習着ルール			
受講条件	特になし			
教科書等	特になし			
<p>授業概要 作業療法の現場に出向き、社会人として、医療人としての基本的スキルを学び、実践する。有資格者である作業療法士から指導を受け、対象者の評価、治療計画の立案、治療の実施、記録・報告、再評価を行い、作業療法の治療行為を習得する。実習後には学内においてのセミナーで、実習で行った治療の結果を発表し、教員からフィードバックを受ける。</p>				
<p>狙いと到達目標 対象者に対する作業療法の意義を考え、作業療法士としての役割と機能を学び、必要な知識と技能を習得する。実習を通して他の医療関係職員とのチームワークを体得し、また作業療法としての管理、運営業務を学ぶ。</p>				
<p>授業において実務経験をどのように生かすか 臨床における実習生指導の経験を生かし、実りのある実習にするための指導を行う。</p>				
授業計画・内容				
1週目	施設の概要・作業療法の役割を知る。対象者に対し、初回面接・評価を行う。			
2～3週目	対象者の評価。治療計画立案・実施			
4～7週目	作業療法実施			
8週目	再評価。治療経過のまとめ及び考察。			
セミナー				
評価方法	実習前実技試験の結果、事前準備書類とオリエンテーション参加、出席状況、臨床総合実習学生評定表、セミナー発表状況、課題の振り返り			
<p>自由記述 (メッセージ)</p>				